

# 泥爆弾と水爆弾

近藤 千恵子

幼稚園の庭は、折々に様々な顔をみせる。新しい仲間達を迎える気持ちをこめて、庭一面に砂を入れると、庭は春の陽を吸いこんで、やさしい銀色に光る。ままごとのご馳走作りや、両手に包みこめる程の小さな山作りが、あちこちにうまれる四月の顔である。六月頃になると、大きな穴が掘られたり山ができたり、庭はでこぼこになってくる。注意して歩かないと転んでしまいそうな、頼もしい主張を持つ顔である。

園庭の山は、一日の遊びが終る毎に高くなり、それと同じだけ、山の周りを取り巻く堀は深くひろがってきた。どこまで大きくなるのだろう、と思っていると、堀の上には丸太が渡されて、二、三步で上手に山に登り、また丸太の橋を渡って向う側へ降りて行くこども達の姿が、まるで、今日の仕事の成果を確かめているようにみえる日が続いた。そして、夕方から降りだした雨は、本降りになった。

雨上がりの翌朝、登園してきたこども達は、堀の中になっぷりと溜った泥水、濡れた山、園庭のあちらこちらにできた水溜りを、ゆっくり見まわしてから保育室へ入っていった。保育者にとって、此

の光景は予想通りであり、今日の活動はどんな展開をみせるか楽しみである。勿論、泥に汚れて気にならない身仕度で、男性保育者ならパンツ一枚のはだしで庭に出る。

山を作ったメンバーの一人、四月に入園した年中のKは、庭に出てくるとすぐ、黄色い長靴の足をそーっと泥水の堀にすべりこませた。長靴が堀の底に届かず、Kの体がふらふらしている中に、泥水は長靴を越えて流れこんでくる。Kは保育室へ戻ると、すぐはだしになってきた。泥水と素手で取り組む気持ちなのだろ。水の深さはKの膝までもあった。山はつるつると滑って、Kの挑戦を拒む。毎日渡れていた丸太の橋までがすべりやすくなって、こども達を泥の中に落すのである。もうやめられない。

雨という自然の恵みの水を、土の遊びの面白さに、こども達は我を忘れて吸いこまれてゆく。

こんな遊びの延長線上に、「泥爆弾」と「水爆弾」の遊びがある。

「泥爆弾」は、自然が作ってくれた水溜りのない日は、水道の水をバケツで運び、水溜りを作ることから始まる泥だんご合戦であるが、首から上は狙わない、無差別攻撃はしない、と、暗黙の了解がある。たっぶりの茶色い水溜りへ、保育者が大きな泥を落とす。「ポシャン」と飛び散る泥水で、こども達は顔から体まで泥んこの水玉模様になってしまう。反撃の泥爆弾が保育者の背中に当って「うーん、やられた」と、泥の中に倒れる。泥の中を追いかけすべったり、逃げて転んだりして、誰なのかわからない程の泥だらけになる接近戦と、水溜りの中に泥爆弾を投げ、はね返る泥水で相手を泥だらけにする頭脳戦がある。時をみはからって、保育室の前にベビーパーのお風呂を用意する。燃焼しきったこども達は、気持ちよさそうにお湯の中に体をのばす。着替えをすませてお弁当である。

「水爆弾」は、水をかけ合う遊びである。泥のように汚れないところに一般性がある。気温が高くなってくる季節、朝からの遊びが低調になる十時半頃に、どこからともなく発生する。誰かがマヨネーズ容器などに水を入れ、水鉄砲のように水をとばす。ちよつと濡れただけでメソメソすることもが、「大丈夫。いっしょにやろう。」と言う保育者の援助で、水爆弾の遊びの仲間となり、水を入れた容器を持って走れるようになる。仲間に入りたようにみえながら、一人あそびを続けていたことも水爆弾をきっかけに遊びのメンバーとして位置づく。水爆弾を嫌って庭の隅に衝立てを立て、ままごとやお姫さまごっこを続けることも達もいる。

大きなグループ同士の水爆弾はすごい。例えば剣ごっこグループが泥だんご屋グループに向かって攻撃を始めれば、泥だんご屋グループも「よし」と受けて立つ。時々マヨネーズ容器では物足りず、バケツの水爆弾がでくると、双方ずぶ濡れとなって終りである。やってみた人にしか解らない解放感と快感なのだろう。また、ベビーバスのお風呂を用意する私である。

お母さんにきちんと着せられた服を汚せない、濡らせない、脱げないことも達と出逢う事が多くなっている。こども達の姿があるがまゝに受容する一方、ここいらでやってみようかと、保育者チームが話し合い、こんな遊びにまきこむ。誰が名づけたのか、多分、こども達がこう呼び始めたのだと思う。



(まんとみ幼稚園)

(撮影) 浅田 恒穂氏

# 雨

北原 白秋・作詞

雨が降ります 雨が降る  
遊びに行きたし かさはなし  
紅緒のかつこも 緒がきれた  
雨が降ります 雨が降る  
いやでもおうちで 遊びましょう  
千代紙折りましょう たたみましょう  
雨が降ります 雨が降る  
けんけん子鳩が 今ないた  
子鳩も寒かる さびしかろ  
雨が降ります 雨が降る  
お人形寝かせど まだやまぬ  
お線香花火も みなたいた  
雨が降ります 雨が降る  
昼も降る降る 夜も降る  
雨が降ります 雨が降る

# 四季の雨

尋常小学校唱歌

降るとも見えじ 春の雨  
水に輪をかく 波なくば  
煙るとばかり 思わせて  
降るとも見えじ 春の雨  
にわかにも過ぐる 夏の雨  
物干しざおに 白露を  
名残としばし 光らせて  
にわかにも過ぐる 夏の雨  
折々そそぐ 秋の雨  
木の葉木の実を 野に山に  
色様々に 染めなして  
折々そそぐ 秋の雨  
聞くだに寒き 冬の雨  
窓の小笹 さやさやと  
更けゆく夜半を 訪れて  
聞くだに寒き 冬の雨